Vol.62 小さな農家は守りません！



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

オレにも言わせろ！

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

スローフードという名前を聞いたことがある方たちも多いと思う。ことの発端は1986年に今までイタリア・ローマに参入していなかったマクドナルドが当地にて開店することになり、イタリアの食に対する危機感から生まれた運動である。その地域の食文化を大切にしようとする試みは世界中に影響を及ぼすことになり、東京においても01年10月にニッポン東京スローフード協会が設立された。理念はこうだ。

①消えつつある郷土料理や質の良い食品を守ること

②質の良い素材を提供してくれる小生産者を守っていくこと

③子供たちを含めた消費者全体に味の教育をすすめていくこと

と書いてあり、イタリアのご本家様の理念とほぼ同じである。

北海道スローフード宣言の本音

そこで北海道の実情を調べてみた。道庁・農政部のホームページによると、このスローフードを勉強するために4回の検討会が開かれ、イタリア現地調査を経て、〝北海道スローフード宣言〟が発表された。3つの理念、8つの取組指針が行動計画として掲げられ、積極的な行動を呼びかけるのは当時の農政部長、後の副知事で現在は私と同じ長沼に居を構える麻田信二さんである。

ドサンコ（北海道民）行政は正直者だ。道庁の北海道スローフード宣言には**「小生産者を守っていく」の日本語が存在しない**のである。そりゃそうだろう。小さな農家を守ることは効率が悪く、より多くの予算配分をしなければならないと考えたら、恐ろしくてTPP参加後の利益が吹っ飛んでしまうことになるのだから。麻田さんは「遺伝子組み換え反対！」「米国型の土地利用型農業は農民の心が荒れる」と言いつつ、現実的な北海道農業を予測するとやはり**大規模生産者のみに未来を託したい**のだろう。

単純な疑問がある。イタリアにはファストフードが存在しないのだろうか？　それは違うようだ。たとえばパニーノはサブウェイのサンドイッチの原型のようだし、バラの形をしたパンはロゼッタと呼ばれ、ピザは正しくファストフードの象徴であろうし、おいしいときは素直にボーノと言いたい。まったくイタリア・ペペロンチーノ野郎の頭はどうなっているんだ？

ふたを開けてみたらイタリア製でマトモなものって何がある？　北海道でランボルギーニのトラクタが10年間稼いだなんて聞いたこともないし、あえて選べと言われたらアルマーニにピザとパスタくらいなもんだろう？　でも米国人に言わせるとピザを有名にしたのはオレたち、新大陸人で、パスタのデュラム小麦も米

国やカナダからの輸入量が圧倒的に多い。ヒール・ミヤイ的には**金髪・ブルーアイだったら何でも良いってもんじゃないんだ！**

実は日本にはスローフードを名乗る支部が40以上あり、理念や指針を明確にした協会は少ないと感じた。元々このような生産をしない左翼的な集団は、社会主義国の原爆を認める原水協と、すべて禁止の原水禁のようにすぐ派生集団を生みやすい。まっ、頭デッカチの烏合の衆ということなのだろう。ただこのような集団は社会の動きの変化をかぎ分ける臭覚は、すごいのかもしれない。良い例が、連中は反米でありながら米国外来語の造語普及が上手だ。

私は阪神・淡路大震災のちょうど３６５日前にＬＡにいた。あのノースリッジ地震と呼ばれ、高速道路の橋梁部分がドミノのようになぎ倒される現場を目の当たりにした。テレビではリポーターが被害の状況を伝えるのに「ライフライン」という単語を頻繁に使っていた。意味はすぐ理解できたが、今まで聞いたことがなかった。ところが1年後、阪神大震災ではどこでパクッタのか、頻繁に同じ単語が使われていた。

食でも同じことが言える。よく聞く「持続可能な農業」って誰が作った言葉か？　英語ではサスティナブル・アグリカルチャーというそうだ。米国の１９９０年農業予算で使われ始めた。「低負荷農業」はロー・インプット・アグリカルチャーになるが、どちらが先に使ったのか？　では、フード・マイレージは？　極めつけは「有機栽培」だろう。発音するだけで昔活躍した前立腺がムズかゆくなる単語だ。

ＴＰＰを日本人が発想できない

そういえば小作人根性の持ち主でも、地主の土地を利用して住宅を建てる可能性を増やした「定期借地権」という画期的な考え方を示した当時の大蔵省はすごい！と思ったが、実はさかのぼること１３０年以上前に米国やイギリスでは運用されているのだから、パクリにしては遅すぎた感がある。

まだ騒いでいるＴＰＰも同じことだ。こちらは単語ではなく考え方になるが、**日本人には発想できなかった単語や社会システム**を日本人が比較評価する、いや、できると考えているアホー度を測る定規は日本には元々存在しないのだろう。戦後の成功した日本の社会システムを構築して、いまだ影響を与える米国様への無礼三昧を肯定する者は国賊以外の何物でもない。

ＴＰＰは今後の日本の法律にも影響を及ぼす。みなさん飛行機はどこから離陸してどこに着陸すべきかご存じですよね？　答えはもちろん飛行場だ。航空法第79条にもそのように記載されている。だが、その飛行機を世界で一番運用している米国のみならず、多くの国では一部の例外を除き離発着場に何ら規定がないのが当たり前になっている。そう、どこに着陸しようが離陸しようがパイロットの判断次第なのである。

さらに飛行機を運行するのに日本では無線の資格が必要である。筆記試験では「あ」は「朝日のあ」、「い」は「イロハのい」と言い、「ミヤイ」を英語で伝える時は「マイク、インディア、ヤンキー、アルファ、インディア」と日本人に伝えることになる。その他、法規や技術系の試験に合格する必要があるが、米国には無線の試験は存在しない。だってそうでしょう。飛び立って無線が故障しても資格とは関係ないので、無線は航空機と一体で整備されるものという考え方である。本当か～？と勘繰る方たちは米国大使館内にあるＦＡＡ（連邦航空局）までどうぞ。

あ、そういえば航空行政で一番いやらしいな～と感じたことがありました。管制塔の高さってどのように決められるかご存じですか？　科学的、航空力学上、安全、安心を求めて？　な、訳はない。

今から20年くらい前にススキノで当時の運輸省の方が酔っ払った勢いで「ナニ？　関空だ？　成田の正式名称は新東京国際空港（当時）っていうんだ、後からできた関空の管制塔の高さを、首都圏よりも高くするなど絶対に認められん！」と大トラさんに変貌していた。

で、その成田の**管制塔の高さ**は87・3ｍ、後からできた関空は80ｍで、東京と大阪の中間にある中部国際空港のその高さは86・75ｍ。決して**首都圏よりも高くさせない**との意思をはっきり示す、日本の行政の力は大したものだと、マザマザと見せつけられることになる。

農業と何の関係があるのか？

北海道農業は農村だけの地産地消では成り立たない。そこには**消費地である都市が必要**で、その経済活動の利益の元に成り立っているということである。決して北海道だけが自立して東京よりも成長して豊かな社会になるようなことを首都圏の行政が認めないだろう。ちなみに現在の新千歳空港の管制塔の高さは70ｍで羽田空港は１１５・７ｍ。数字は正直ですね。まっ、難しいこと考えないで農水を信頼して所得倍増でワイハに行きましょ♡